

◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<5月> 業界の景況(前月比DI値)

前月に引き続き、人流が増え消費活動は回復してきているが、一方で原材料、資材等の価格高騰が収まらず、経営圧迫が深刻化してきている。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況（前月比D I 値）			
		令和4年2月	令和4年3月	令和4年4月	令和4年5月
製造業	食料品製造業	 △ 60	 △ 50	 17	 17
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 △ 67	 △ 100	 △ 33	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 0	 0	 0	 0
非製造業	卸売業	 △ 40	 △ 25	 25	 △ 20
	小売業	 △ 60	 △ 80	 △ 40	 △ 20
	商店街	 △ 67	 △ 33	 △ 33	 0
	サービス業	 △ 43	 △ 43	 △ 14	 29
	建設業	 △ 33	 17	 17	 △ 17
	運輸業	 △ 100	 △ 33	 50	 50
	その他	 0	 0	 0	 0

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	前月に引き続き順調に売上数量が伸びてきているが、コロナ感染症以前の状況には回復はしていない。更に現在の状況として原料及び資材包材の高騰だけでなく、光熱費などの経費類の値上げが相次いでいる事もあり、出来るだけ速やかに製品価格の値上げが出来ることを願っている。
水産練製業界	主原料のすりみは、秋口入荷のものは kg あたり 100 円～170 円の値上げになると今から言われている。食油は先月より 5%値上がりしており昨年の最安値の時の 1.5 倍になっているが、来年に向けて更に上がると言われている。かまぼこが日常の「おかず」から「超高級品」へ様変わりしようとしている。
酒造業界	例年 5 月分の出荷数量は、歓送迎会シーズンでもある 4 月分の数量を下回る傾向にあり、本年も例年同様に前月比では減少したものの、前年同月との比較においては上回る結果となった。ゴールデンウィーク明けのコロナ検査数増加に伴う新規感染者の一時的な増加はあったものの、その後は減少傾向が続いていることに加え、宮城県が発出している再拡大防止期間が 5 月 15 日をもって解除となったことを受け、今後、飲酒機会の増加に伴う飲食店向け出荷数量の増加が期待される。
製麺業界	小麦粉をはじめ多くの原料資材が高騰し、市場が不況状態にもかかわらず値上げに踏み切らざるをえない事態になっている。徐々に価格転嫁は進んでいるものの、流通については、この秋になるところもある。しかし、6 月 20 日には再度の値上げが大幅にあり、次の値上げも視野に入れての営業活動や値上げ実行が課題である。値段が上がれば売れなくなるという近年の状況は大手の商品にも起きており、今後の売上数量が懸念されている。
木材業界	県内の 4 月の住宅着工数は 1, 395 戸で前月比 8%減、前年同月比 2%減。1～4 月累計では前年同期比 11%増。全国ベースでも 14 カ月連続で前年同月を上回っているが、資材価格、住宅価格が上昇しており、今後の見通しは不透明。原木は需要増が続き、高値で推移。製品は乾燥材が若干不足気味、価格は現状維持が継続。合板は不足感が継続するとともに、コスト高で、さらに値上げが続いている。木材全般の価格高騰ながら各社ごとの景況の差が大きくなっている。
印刷業界	原材料価格・エネルギー価格の上昇の影響が出てきている。価格転嫁は容易に進んでいない。イベントなどは徐々に行われてきているが、チラシ等の受注はコロナ前までは回復していない。印刷用紙全体もコロナ前から 1～2 割程度減少しており、同様に印刷物も減少している。コロナの影響に加え、デジタル化によるペーパーレスが徐々に進んでいるものと思われる。

生コンクリート業界	5月の生コン出荷量は 77.4 千m³で、前年同月比 77.0 %となり、前月よりさらに減少した。地区別では、県南のみが大きく増加し、他の地区は軒並み減少となった。特に沿岸部の減少が著しく、地域間の需要偏在が大きい状況である。
コンクリート製品業界	組合員の4月の出荷量は、前年同月比 6 2 %、前月比 7 9 %であった。生産量は、前年同月比 1 1 2 %、前月比 1 0 3 %であった。在庫は、前年同月比 1 0 6 %であった。 (※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から 1 ヶ月遅れの報告です)
機械金属業界 A	前月比、前年同月比とも業種により全体的にばらつきが見られる。今後サービス消費を中心に個人消費が増加に転じ、企業の生産活動も供給制約の緩和により、持ち直しが見込まれるが、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーや原材料の価格上昇が与える影響には注意が必要である。
機械金属業界 B	先月に引き続き、産業全体に於いて設備投資意欲が高く、受注はかなり持ち直してきているが、原材料費の価格上昇や資材不足のところに円安が重なり、仕入価格に大きく影響が出ているため、収益状況が懸念される。
再生資源業界	4月まで上昇の一途だった国内鉄スクラップ相場は、5月に入ると大幅な下落となった。海外で安価なロシア産の半製品の流通が伝えられた4月以降、海外需要家は一斉に様子見姿勢を強め、その影響で日本産スクラップの新規輸出商談も難航し、ゴールデンウィーク明けには国際価格の下落が波及する形で国内でも高値修正の動きが本格化した。電炉メーカーの荷止めや荷受け制限が広がり、需給が緩和している地区も見受けられることから、国内相場はしばらく下落方向に推移する見込み。古紙も、ダンボール古紙の国内の発生減で、需給の不安感が散見され、一部値上げとなる可能性がある。
各種卸売業界	新型コロナウイルスの影響が続いている。
繊維卸売業界	昨年からの価格上昇がさらに増加してきた。ウクライナ問題が購買者に心理的に影響し、買い控えが起きている。婦人服は回復傾向にあるが、外出機会が増えないと動きが鈍い。メーカー生産も減少している。

ゴム製品卸業界	新年度となり 2 ヶ月が経過し、5 月は連休等で稼働日数が少ない割には多少状況は活性化している様に感じるが、相変わらず新年度になっても商材の価格改定は止まらず、一年間で二度の改訂をするメーカーもかなり多くなり、今後も値上がりの状況が続くと予想されている。又、商品・材料の不足は深刻さを増し、製造メーカーでは商品の受注が受けられない状態の所も出て来ている。景気が少し上向いて来ている時に、この状況は非常にジレンマを感じる。この状況は経済に及ぼす影響は非常に大きく、何とか改善して欲しいところである。
鮮魚卸売業界	5 月の連休期間は大幅な来場者の増加があり、売り上げはコロナ前に戻った感があったが、連休の賑わいの反動なのか、その後は閑散とした商いに戻った。一方、生鮮魚介類のうち本マグロの水揚げは好調に推移している。夏マグロと言われる本マグロは夏場の漁獲だが、近年時期が早くなってきている。県内産の養殖ホタテなど貝類は相変わらず貝毒の発生があり、出荷制限と解除を繰り返し供給が安定していない。土日の小売と料飲店の仕入が復活傾向にある。一日も早い飲食店などへの自粛要請解除を期待している。
鮮魚小売業界	5 月の連休後は、漁獲量の減少、消費の減少が続き、いまいち売り上げが上がらない。冷凍魚、特殊魚、養殖魚すべて単価が上昇し、ますます経営が大変な状況である。
青果小売業界	前年対比 102.1%、前々年対比 103%。先月同様、数字上は状況が好転したように感じるが、上海のロックダウンの影響で中国産玉葱が入荷せず、飲食店へ納める玉葱が高い国産物に切り替わったことが数字を押し上げた。小売は巣ごもり需要終了の反動が今も続いている。物価の高騰により、補助金や助成金支給の条件の対象になることができない中、利益もとれずとても厳しい状況。
家電小売業界	コロナ禍になって 3 年、今年の夏は昨年よりも暑いと予想されており、地域電気店ではエアコンの早期販売に力を入れている。売れ筋はやはり機能性に優れている商品、省エネ重視で行けば扇風機で除菌機能付が売れている。
石油小売業界	原油価格は、ロシアによるウクライナ侵攻や円安の影響で今後も上昇する傾向が続くと予測されており、政府の補助金がなければ小売販売価格はさらに上昇していたと思われる。今後も世界情勢や国内の政府の政策などを注視していく必要がある。
花卉小売業界	当月売上については、前年同月対比で 110.8%と前年を上回ったが、この計数は金額ベースのものであり、数量ベースは前年を下回り、取引量としては低調な月となった。これは品薄、供給不足を意味しており取引相場は高値推移となった。この背景には生産者側での原油高による生産コストの上昇、物流への影響があり、加えて石油製品である化

	学肥料の入手が困難な状況がある。花卉業界として好材料は見られず、根底には依然として新型コロナの影響による低迷が続いている。
商店街	(仙台地区 A 商店街) 新型コロナウイルス感染症の縮小傾向が続くか注視している。原材料費の高騰による値上げによる売上への影響が懸念される。 (仙台地区 B 商店街) 日々、人出は増加傾向にあるものの、飲食を中心に値上げの影響が出ており、売上増には結び付かない状態にある。(街に人は出ていても店はガラガラの状況) (大崎地区 A 商店街) ここに来てコロナへの規制緩和の傾向もあることから街の賑わいが少しずつ回復の雰囲気に戻りつつある。ただし夜の商売のバロメーターたる運転代行業者の倒産や、これまで頑張ってきた街中の中小型飲食店の閉店も散見されるなど、その後遺症が心配されるところだ。
クリーニング業界	5 月に入り今までコロナ禍の中、リモート等の生活であったが、2 年ぶりに洗濯物が出た。ホテル関連もビジネスホテルは多少増えた。
自動車整備業界	自動車整備全体としては大きな変化は見られないが、4 月に引き続き 5 月の車検台数は若干の減少が見られた。また、新車の登録台数が半導体・部品不足の影響で大きく減少していることから、2 年・3 年後の影響が懸念される。
廃棄物処理業界	3 年ぶりに緊急事態宣言のない大型連休(GW)や、各種イベントが再開され、経済活動再開による業績回復に期待するが、世界情勢による物価高が悪影響とならないか不安に感じている。
警備業界	元請工事会社と交通誘導整備の「契約書」を交わした案件について、「料金の安いところが営業に来た」という理由ですっぽかされ、損害を被った組合員があった。元請工事会社と下請警備会社のトラブルの典型で、元請会社と下請会社の問題は根深い。元請工事会社に対する同業界の上部組織の指導・研鑽に期待したい。
湾岸旅客業界	4 月に引き続き、コロナ禍は続いているが、ウイズコロナの流れで、感染症対策を十分にを行い営業を継続していることは変わらない。数字は、すべての月間に於いて前年比で増加しているが、4 月 23 日に発生した知床遊覧船沈没事故の影響で、旅行会社や利用者からは、安全への取り組み、救命設備、船客保険加入状況などの情報を求められる

	問い合わせが多くなってきている。予約キャンセルは、教育旅行でも発生している状況であり、一般観光客の乗船控えも多いものとみられる。今後もなお一層の安全に対する取り組みに気を引き締めて営業を行っていく。
ホテル・旅館業界	GWに多くのお客様が宿泊され前月はもとより対前年比でも大きく伸びた。GOTOの全国版の検討が政府内で行われているという情報もあり、インバウンドの再開も含め明るい情報が多い。
シーリング業界	前月に引き続き地震の影響で業務量が増加。現場系職員が不足しているため、特に大型案件に対しての人員確保が非常に厳しく、受注が確保できていても対応しきれんかどうかという不安の声も聞こえている。当組合としては、人材交流（応援等）を行い連携を密にして業務量の増加による対応を図っていききたい。各社の経営状況については、4月1日より材料の値上げによる影響で、経営状況はまだ厳しい状況は続く予想。当組合としては、いち早い情報の発信やどのような準備をし、実行していくことが必要なのかと、知恵を出し合い対処していききたい。
建設業界	復興需要の収束により、極端に県内事業量が減少しているのが大きな要因であるが、今般のウクライナ情勢やコロナウイルス感染症の長期化による原材料やエネルギーコスト等の価格変動の影響を大きく受け、資機材価格の上昇に歯止めがかからない実態にあること、また、材料の納入に時間を要する、納期予定がつかない等、先行きが不透明である。
硝子業界	材料費の高止まり状況が続いているが、仕事量が減少傾向に推移しているため、受注のための過度な価格競争が懸念される。景気状況は悪化しているような感じがする。
電気工事業界	資材、商品の高騰及び納入の遅れが見られる。
板金業界	5月の景況について、新築一戸建て、リフォーム共に前月及び前年度に対して変わらず推移した。
タクシー業界	街中の人流は4月と比べ、増加傾向はあまり見られない。5月は総じて利用客が減少する月間でもある。なお、地震被害調査の貸切利用は続いた。LPG 価格は前月に続き3円/ℓほど値上がりし、近年の最高値であった。
倉庫業界	前月比では全体的には、入・出庫量ともに増加し在庫量は減少している。売上高(収入)は微増である。品目別では農産品・食料工業品・雑工業品が入・出庫量ともに増加している。化学工業品・紙パルプは入・出庫量ともに減少している。前年同月比では全体的には、在庫量

	が増加し在庫量と在庫量は減少しているが、売上高(収入)は微増である。品目別では農産品・雑品が入・在庫量ともに増加しているが、他の品目は、入・在庫量ともに減少傾向にある。
不動産業界	上海のロックダウンの影響は、給湯器等の部品不足によりリフォームの遅れ等で販売に影響が大きく出ている。中には部品一つでマンションの販売が延期になっているものもある。